

01. 誘惑
  02. 嫉妬
  03. 生きてく強さ
  04. グロリアス
  05. メドレー (シキナ〜STREET LIFE  
〜Missing You〜都忘れ〜MIRROR)
  06. BLACK MONEY
  07. NEVER-ENDING LOVE (仮タイトル)
  08. 軌跡の果て
  09. つづれ織り  
〜so far and yet so close〜
  10. pure soul
  11. メドレー (BE WITH YOU  
〜ここではない、どこかへ〜とまどい  
〜SPECIAL THANKS〜春を愛する人)
  12. BRIGHTEN UP
  13. 彼女の "Modern..."
  14. 疾走れ! ミライ
  15. SOUL LOVE
- ENCORE
01. 悲願
  02. HOWEVER
  03. またここであいましょう
  04. BEAUTIFUL DREAMER

# 30th Anniversary GLAY EXPO

LIVE  
REPORT

6/8 sun. 京セラドーム

GLAY

## 30周年 GRAND FINALE で 伝えた感謝と新たな約束

デビュー 30 周年記念として昨年から展開されてきた【GLAY EXPO】を締め括る GRAND FINALE が京セラドームで開催された。今回、ドームでは GLAY 史上初となるセンターステージを設置。オープニングはメンバー 4 人それぞれのキャラで異なる場所から京セラドームに集結する映画のスケールの映像で惹きつける。ステージ上にメンバーが登場すると大歓声からシンガロングへ、すさまじいほどの熱気が湧きあがる『誘惑』からスタートした。場内から飛び交う熱い声援を受けて、「よくみんなの顔を見せてください。今回のドームツアーからみなさんは GLAY になりました!」「30 年間、いつも一緒にいてくれてありがとうございます!」と TERU。その後に歌った『生きてく強

さ』ではアリーナ&スタンドからの大合唱と共にドーム全体がひとつになる温かく幸せな光景に包まれた。

今回の公演では、「少しでも多くの曲を聴いてもらいたい」との思いから HISASHI のアレンジで 5 曲ずつ繋げたメドレーを前半と後半で展開。そのふたつのメドレーに挟まれた中盤のブロックでは、JIRO と HISASHI のボーカルをフィーチャーした『BLACK MONEY』でエッジの効いたダークな世界観に引き込む。TAKURO はメンバーへの最大級のリスペクトを込めて、「これが俺の自慢の GLAY だ!」と雄叫びを上げる。観客への謝辞を述べて、「みなさんに永遠の愛を込めて送ります」と『NEVER-ENDING LOVE』(仮タイトル)をアコースティックギターの弾き語りで聴かせてくれた。その歌は 30 年の歩みで培ってきた GLAY とファンたちの強い絆を歌っているようにも感じた。

また、FM802 の番組【CHILLIN' Sunday】とつないで DJ 落合健太郎氏とのクロストークが展開。その後のメドレーもラジオで生放送され、会場外のファンやリスナーにも熱気を届けた。そして、『BRIGHTEN UP』から疾走感満点のラストスパート。一斉にクラブが広がり、拳を突き上

げる観客と共に最大のボルテージで本編ラストの『SOUL LOVE』まで熱くエネルギーに畳み掛けていった。

この日はアンコールもスペシャル感満載だった。当日は TERU のバースデーと重なっていたため、特大ケーキのプレゼントがあり、次に改めてメンバー各々の言葉でファンへの感謝の思いを伝える。TAKURO はこれまでに実現してきた数々の夢のコラボを振り返り、その中から東京ドームの GRAND FINALE で魅せた L'Arc-en-Ciel の hyde との共演シーンがスクリーンで再現された。これには場内からどよめきが起るほど大いに沸かせていた。さらに、小田和正氏によるお祝いコメント VTR も映し出されて、同氏とのコラボ曲『悲願』を TERU の深みを帯びた歌唱で披露。場内をしっかりと浸させた後に、再びサビをみんなが大合唱する『HOWEVER』。そして、TERU 自身が「この歌、本当に歌いたいから」と切望してセトリに組み込まれたという『またここであいましょう』では華やかなキーボードが奏でられ多幸福感に包まれる。その後、メンバー 4 人が二手に分かれてフロートに搭乗し、観客が歌う『SAY YOUR DREAM』が響き渡る中、アリーナ外周をゆっくりとまわっていった。そして、TERU のパワフルな掛け声で歌い出した『BEAUTIFUL DREAMER』で大団円となった。

クロージング映像としてスクリーンに映し出されていたのは GLAY 30 年の軌跡と「永遠に GLAY をやりたいです」の文字。ライブ中もメンバーが端々で口にしていたのは、この先の 40、50 周年を見据えた言葉と次の夢に向かう姿勢。「みなさんが GLAY と共に見たい夢があったら教えてください。僕はそれに取り組んでいく」と言っていた TAKURO。TERU は「止まらない GLAY ではなく、止まらない GLAY をみんなと一緒に楽しんで行きましょう!」と声をかけていた。言葉にしきれない思いは歌に託し、30 年分の感謝と新たな約束を伝えた約 3 時間の濃密なグランドフィナーレだった。

